

さくら第527号

令和 5年11月

さくら

発行所 さくらそろばん
 発行者 平瀬重雄
 春江町境 17-7:TEL51-1337
 hirase@mx2.fctv.ne.jp

あどじや
 てきぬんたよ
 なあ
 いまのことは
 いましができぬ
 みつを

『ちょっとした言葉がけと動作』

3年女子が、わり算の導入プリントでミスしたところの直しを指導机でしています。今日は、検定試験の可否の発表の日なので生徒手帳に出席ハンコをおしてもらい受験者の顔はやや不安気です。

練習を何度となく重ねて自信あると言っている5年男子。インフルエンザになって試験前の大事な1週間を自宅で休んでいた6年女子は計算数が少なく、もうすべった、ダメやったと発表前からあきらめ顔です。

初めて3級を受けて緊張したのか。かけ算をわり算にしてしまい何題かして気づき、あわててやり直したのもうダメだったと心配顔する4年女子がいます。

ふだんの練習の時から話している事は、能力検定試験は1級～3級までは、かけ算、わり算、みとり算の3種目合計300点満点中、240点あれば受かります。合格証書に何点で合格とは印刷しないので点数が低くても合格すれば良いんだから気にせず、次の試験に向けて計算力をつけてくださいと言っています。

先ほどの3年女子がやり取りを聞いていたのでしょうか、合格シールを手にした5年男子に、『おめでとう、良かったね』と言いながらニコリした顔を向けます。

すると、ありがとうと笑顔でお礼の言葉を返します。この二人の対話を耳にしてとてもあたたかい空気の流れを感じます。ほんの些細な言葉の行き来が互いの心を和ませ、周囲の人たちの気持ちをもやさしく包みます。日々の生活のなかでちょっとした思いやりやいたわり、感

謝の気持ちが言葉や動作となって現れるとやる気や意欲が増します。

他人のよろこびに対して素直に良かったね、がんばったよねと言える人になりたいものです。相手の行いを素直に認められる人には、自分の行いに対してもあたたかい言葉が送られるようになります。

人に誉めて欲しい、認めてもらいたいという気持ちが先にたつとそれは本来の行為とは言い難いですね。

ある日、ある会館のトイレで用をたそうとした時に、4、5歳に見える男の子が入ってきました。大人用のスリッパしかないの小さな足では歩きにくいのと、10cmほどの段差があり、周りに置いてあるスリッパが少し散らばりました。

するとその男の子は、腰をかがめ、散らばったスリッパを小さな手でそろえています。

その様子を見てみると、とても気持ちがよくなりあたたかな空気がただよい嬉しくなります。

「あなた、えらいね。そろえると気持ちがいいね」と話すと、ニコリしました。

用をすませて廊下に出たその男の子は元気よく去りました。何気ない行いにふだんの生活の一端を垣間見るひと時でした。

検定試験が終わると次は合格証書です。福井商工会議所や全珠連福井県支部から届くと合格した人にわたします。

名前を呼ばれても黙っている人、やっと聞こえるほどに小さな声の人、大きく元気のよい声の人などさまざまです。

受け取る時に片手だけ出す人。合格者の名前を呼んでも、ポケットに手を入れたままだまって通立っている人いろいろです。

「ありがとうございます」とハッキリした声でお礼を言う人。面倒くさそうに手を差し出す人もいます。通塾カバンの中に何枚も入れたままの人は、家族に見せないのでしょうか。

合格証書はコンビニやスーパーで売っていません。何か月もかけて合格したのですから、練習した自分と応援している家族にありがとうと言い、きちんとした態度で受け取りましょう。

名月や

畳の上

松の影

季語 名月(秋)

宝井其角